

緑豊かな調和のとれた街をめざして



沿道と調和・
一体化させる

歩道をみどりで
満たす

剪定時期を
厳守する

樹木の個性を
活かす

かつて王朝時代には、首里城から恩納村、名護をはじめとする各番所を繋ぐ道は「宿道」と呼ばれ、道の両脇にはリュウキュウマツが植栽されていたといわれています。暑い沖縄の気候の中でも、涼しく歩くことのできる環境を創っていたんですね。

美しい街並み形成には、街路樹が大きな役割を果たしています。市でも、緑豊かな亜熱帯庭園都市に向け、沖縄特有の自然、歴史、文化環境に調和した街路樹の整備に取り組んでいます。

今回、「歩道をみどりで満たす」「樹木の個性を生かす」「沿道と調和・一体化させる」「剪定時期を厳守する」の4つの管理方針を立て、「那覇市亜熱帯街路樹管理ガイドブック」を作成しました。

真嘉比山川線のフィッカスハイ

真嘉比インターから那覇市立病院へ抜ける道に、街路樹が並ぶ通りがあります。緑のトンネルに癒されたことがある方も多いのではないのでしょうか。この街路樹は「フィッカスハイ」といいます。ガジュマルの仲間で、樹高が高く、たくさんの葉をつけて木陰を作ってくれます。

しかし、枝が細く伸びているため台風時に倒木や枝折れが多く発生し、樹形の乱れが目立ち始めるなど、問題がありました。

そこで、この枝を太く作り直し、美しくたくましい樹木にするために「那覇市亜熱帯街路樹管理ガイドブック」に基づいて、「樹形再生タイプ」で剪定を行いました。

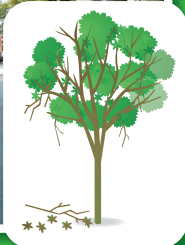
ただ切っただけじゃ
なかったんだね。
きれいな街並みになるのが
楽しみだね。



剪定前



枝折れや樹形の乱れが見られます。



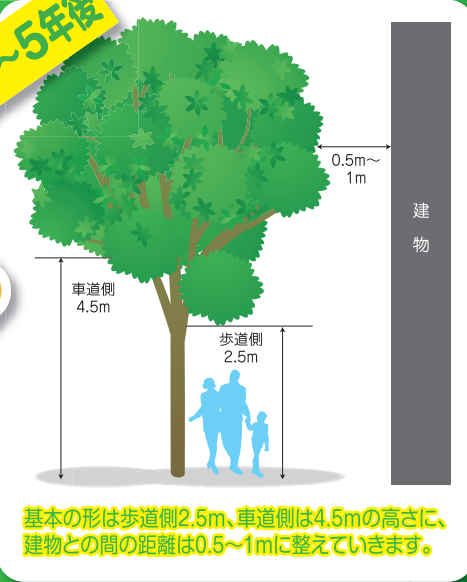
剪定後



太い幹を残して剪定。不定芽が出たら、主枝を決めて不要な枝を切除しながら整えていきます。



3~5年後



基本の形は歩道側2.5m、車道側は4.5mの高さに、建物との間の距離は0.5~1mに整えていきます。

剪定のタイプは4タイプ

ガイドブックでは4つの管理方針のもと、樹木の育っている状況により、路線別樹種別に街路樹の目標とする樹形を定め、次の4タイプに分類して剪定を行うこととしています。

① 育成タイプ
(大きく伸ばす)

まだ目標とする大きさまで育っていない樹木に行います。この剪定は、枝の先端の切り詰めは行わず、将来の樹形を想定したうえで骨格枝を決め、不要な中枝を除去して形を整えながら、目標の大きさに達するまで育成します。

② 維持タイプ
(そのまま維持する)

目標の大きさや形に達している樹木に行います。設定した樹形の範囲からはみ出した枝を剪定し、樹形を維持します。

③ 縮小タイプ
(小さく縮める)

目標の樹形より大きくなった樹木に行います。副主枝の切り詰め剪定を行い、後から出てきた枝を数年かけて目標とする形に整えます。

④ 樹形再生タイプ
(樹形を作り直す)

見栄えが悪く、伸びすぎた枝が家屋に進入するなど管理面でも支障をきたしている樹木に行います。主枝や幹を含めて切り詰め剪定を行い、樹木の骨格を作り直します。



樋川のアカギ並木

緑の
快適空間

街並みに合わせ、ここでは塀が見えるように歩道側も高くしています



緑いっぱいの街になるといいネ♪

お問い合わせ
道路管理課 / ☎951-3237